

2018年8月1日

『YKK AP R&D センター(インドネシア)』開設

蒸暑地域に適した窓の研究開発拠点

YKK AP 株式会社（本社：東京都千代田区、社長：堀 秀充）は、湿度と気温が高い「蒸暑地域」の居住環境に貢献する窓の研究開発拠点として「YKK AP R&D センター（インドネシア）」を開設しました。インドネシア タンゲラン県にある「YKK AP インドネシア社」内の建屋を研究開発施設へと転用し、また新たに実証実験用の施設として「実験棟」を建設しました。

8月1日（現地時間）に開催された開所式では、インドネシア公共事業・国民住宅省、インドネシア日本友好協会、公共事業・国民住宅省人間居住研究所（PUSKIM）、日本駐インドネシア大使館などから、多くのご来賓や関係者を含め約100名に出席いただきました。ご来賓方からは、「産・官・学」連携の取り組みに対し大きな期待を寄せられました。

YKK AP は、初の海外アルミ建材一貫生産工場を1986年にインドネシアに設立し、30年以上にわたり地域に根差した事業展開を行っています。

YKK AP R&D センター（インドネシア）は、富山県・ドイツに続き世界で3つ目の研究開発拠点です。東南アジアを中心とした蒸暑地域の気候風土・建築に適した開口部の開発や、最低限のエネルギーで快適な住環境を設計するためのパッシブデザインを研究し、近年の温暖化が進む世界の人々の社会課題に提案できる窓をグローバルな視点で研究開発していきます。



「YKK AP R&D センター（インドネシア）」外観

【参考資料】

「YKK AP R&D センター (インドネシア)」の概要

- 名 称：YKK AP R&D Center(Indonesia)
所 在 地：インドネシア共和国 タンゲラン県 (YKK AP インドネシア社 内)
活 動 内 容：①蒸暑地域の気候風土・建築事情・基準等の調査
②蒸暑地域の建築物に適した省エネ構法・開口部の調査・研究
③パッシブデザイン (※) 研究の更なる進展
④需要創造に向けた市場調査及び商品の調査・研究・開発
- 建 屋 面 積：885.8 m²
従 業 員 数：5 名予定 (2018 年度)
開 設 日：2018 年 8 月 1 日

「YKK AP インドネシア社」の概要

- 所 在 地：インドネシア共和国タンゲラン県
設 立：1986 年 9 月
敷 地 面 積：182,940 m²
建 屋 面 積：71,443 m²
従 業 員 数：1,145 名 (2017 年度末)
事 業 内 容：アルミ建材およびカーテンウォール関連商品の設計、
製造 (押出・表面処理含む一貫生産)、販売
営 業 拠 点：ジャカルタ事務所、スラバヤ事務所、ベトナム駐在事務所

※パッシブデザインとは、エアコンなどの機械を使わず、太陽の光、熱、風といった「自然エネルギー」をそのまま受動的に利用し、快適な住まいづくりの設計思想・設計手法のこと



「YKK AP R&D センター (インドネシア)」実験棟

通風雨戸を使用した環境配慮型の建屋